



教職大学院だより

熊本大学大学院教育学研究科 令和5年7月1日発行

教育実践研究 大学院での学びを現場で生かす

教職大学院では、教員に必要な実践的指導力を育成することを目指し、理論と実践の往還を通して教育課題の解決を重視しています。そのため、現職派遣教員の院生は現任校において、ストレートマスターは連携協力校と呼ばれる学校において、自分が選んだ研究テーマに沿った実践研究を積み重ねます。今年度も、本格的に取り組が始まりました。

現職院生2年生の宮原大輔さんも、現任校での校内研修で、「道德教育を核としたカリキュラム・マネジメント」について提案し、全職員による取組がスタートしました。ストレートマスターも、多くの授業をしたり、朝の会や給食時間など任せていただいたりして、子どもたちと深くかかわりながら取組を進めます。

実践研究を通して、学校現場で即戦力となる確かな力を育んでいます。



校内研修で取組を提案する現職院生

教職大学院の学び～ストレートマスター座談会～公開



公開された座談会の様子

令和4年度に修了したストレートマスターが、「教職大学院での学び」について語った座談会の様子が、熊本大学公式YouTubeに公開されました。

「指導教員から学ぶ」「現職院生と学ぶ」「現場の実習で学ぶ」「自分と向き合い学ぶ」の4つの動画で構成されています。教

職大学院での2年間の学びについて、ストレートマスターの声を聴くことができます。

あわせて、令和4年度修了生の研究報告書テーマと要旨の一部が公開されました。



P1院生による授業紹介

学校教育と集団心理療法

心理療法と聞くと「心の治療」というイメージがありませんか？しかしこれは誤解で、心理療法が目指すのは、「心理的成長」です。この授業では、児童生徒の「心理的成長」へのアプローチの一つとして、学級等の集団における適切な人間関係を構築するための理論や方法を学んでいます。これまで深く理解しないまま取り組んでいた「Q-U」や「SGE」についても、実際に学習者の立場で体験しながら確かな理論を獲得するとともに、学校現場で実践するためのポイントを多く掴むことができました。この授業での学びには、学級経営だけでなく、生徒指導や学習指導など、様々な場面で応用できるヒントが詰まっています。(P1西 陽平)



P2院生による研究紹介

若手教師を育成する校内支援体制

学校での若手教師の育成はどうなっているでしょうか？教員の大量退職・大量採用、教員の年齢層のバランス、多忙感、コロナ禍などにより、若手教師を育てていた学校の慣習等が失われているような気がします。そこで、教師の成長について調べ、学校における若手教師の育成に貢献したいと思いました。校内での支援体制を思案し行動に移しています。若手教師を支援し、学ぶ環境、時間をつくるのが学校全体の成長に繋がっていかばと思います。多くの先生と関わり、試行錯誤しながら、楽しみながら研究を進めています。失敗も含めて良い報告をしたいと思っています。(P2清水 修)

